

2022年3月31日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合事務局会議（第100回）資料
汚染水処理対策委員会に関わる範囲を抜粋

廃炉中長期実行プラン2022

2022年3月31日

東京電力ホールディングス株式会社

汚染水対策

－今後の主要な作業プロセス

○中長期RMマイルストーン実現のための工程

● 汚染水発生量を100m³/日以下に抑制（2025年内）

- － 地下水バイパス／サブドレン／陸側遮水壁の維持管理運転を継続し、建屋周辺の地下水を低位で安定的に管理
- － 雨水浸透防止対策として、陸側遮水壁内側（山側）の敷地舗装及び建屋屋根破損部の補修を実施

(課題)

- 敷地舗装をする際の制約（作業エリアの放射線環境、既存設備の撤去、等）
- 建屋雨水対策工事における制約（既存設備の撤去、汚染された配管の閉止方法、等）

● 原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減（2022～2024年度）

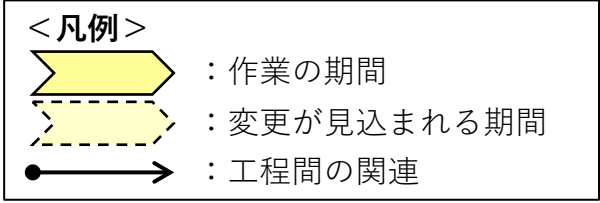
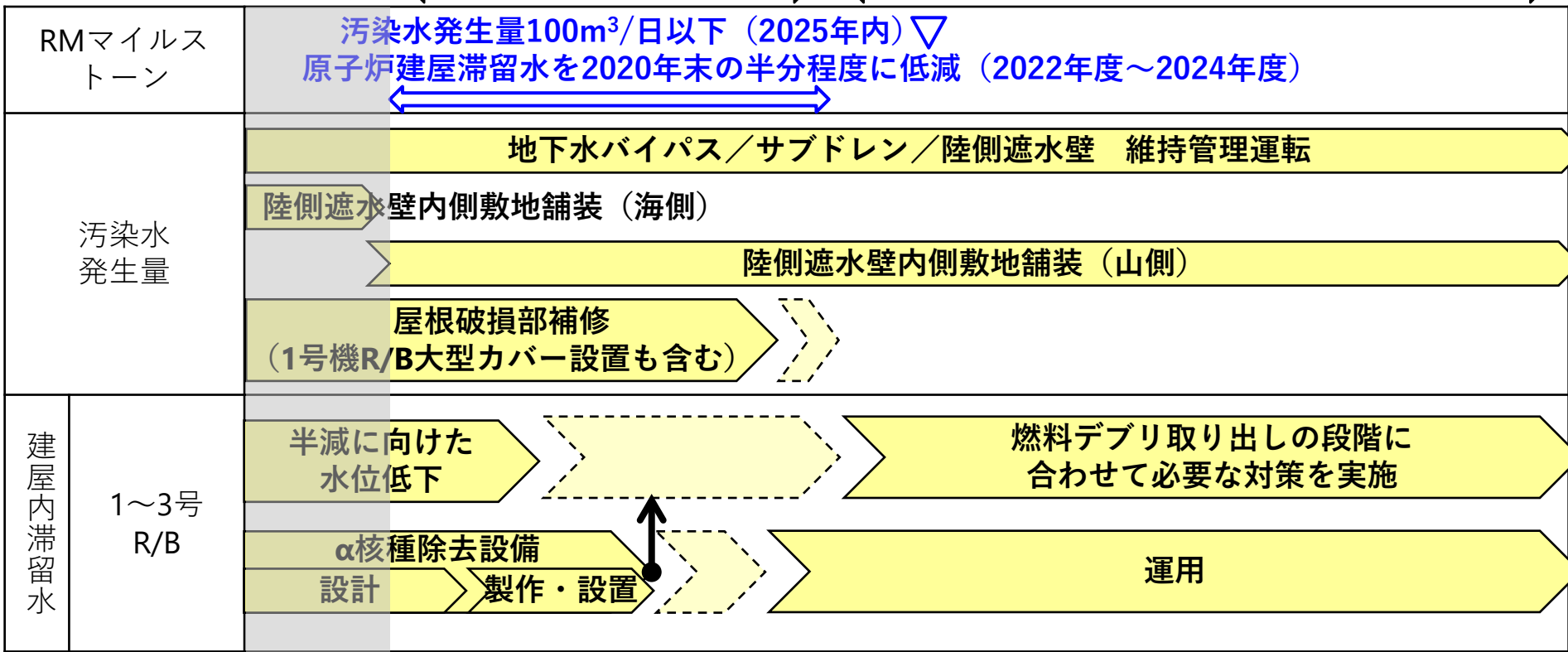
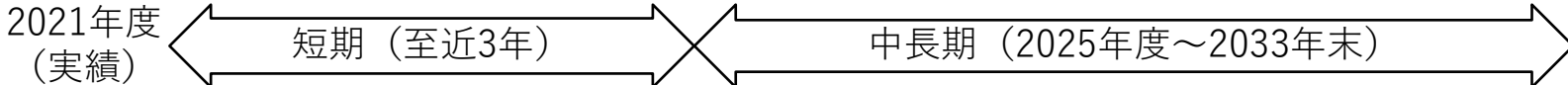
- － R/Bの滞留水の性状確認を行った上で水位を低下
- － 滞留水中に含まれる α 核種については、性状を把握した上で除去設備を設計・設置

(課題)

- 滞留水に含まれる α 核種の分離・除去のための具体的方法検討

汚染水対策

－今後の主要な作業プロセス



プール燃料取り出し

– 今後の主要な作業プロセス(下線が汚染水処理対策委員会に関わる範囲)

○中長期RMマイルストーン実現のための工程

● 1号機大型カバーの設置完了 (2023年度頃)

– ガレキ撤去時のダスト飛散を抑制するため、大型カバーを設置

● 1号機燃料取り出しの開始 (2027～2028年度)

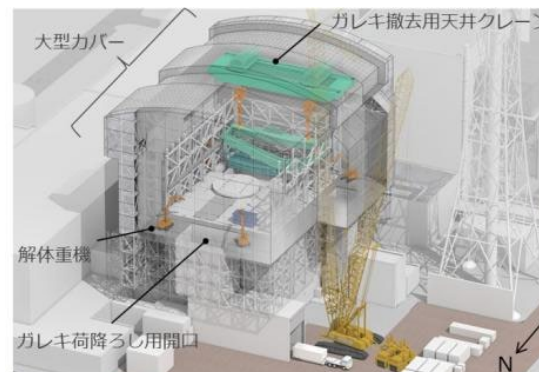
– 燃料取り出しに必要な燃料取扱設備を製作

– ガレキや崩落した天井クレーン等の撤去、事故によりズレているウェルプラグ（原子炉格納容器の上部に設置される遮へいコンクリート）の処置、除染・遮へい等による線量低減を行った上で燃料取扱設備を設置

– 燃料取り扱い訓練を行った上で燃料取り出しを開始

(課題)

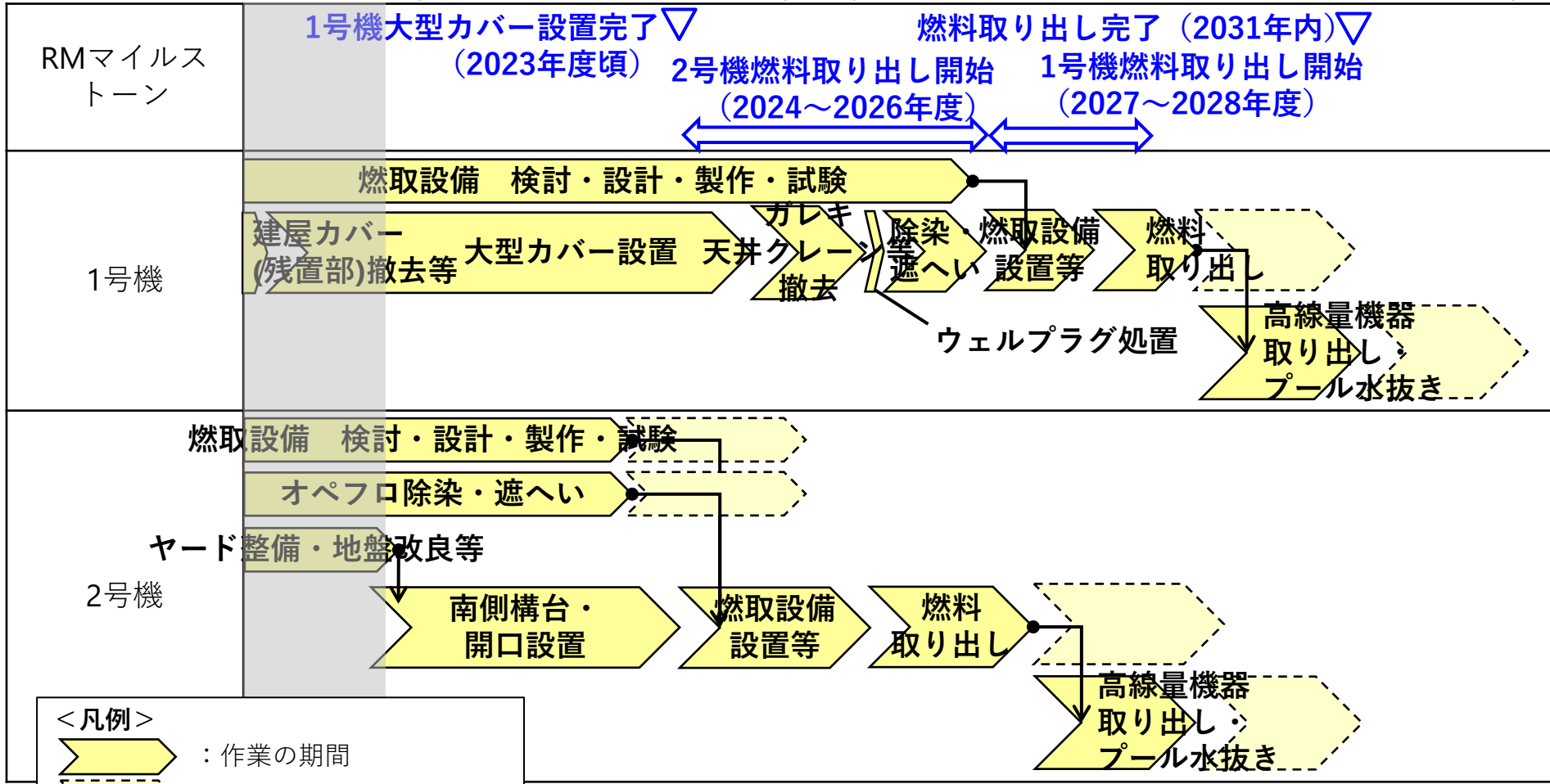
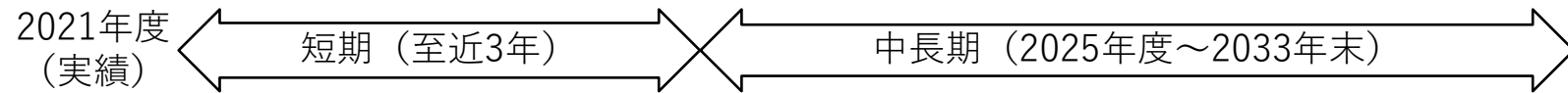
- 作業エリアが干渉する他作業を考慮した計画の検討及び実施
- ダスト飛散抑制の信頼性の高いガレキ撤去計画の検討及び実施
- オペフロ内線量低減に向けた効果的な除染・遮へい計画の検討及び実施
- 震災前から保管している破損燃料の取り扱い計画の検討及び実施



1号機大型カバー (イメージ)

プール燃料取り出し

- 今後の主要な作業プロセス



<凡例>

- 作業の期間
- 変更が見込まれる期間
- 工程間の関連

その他対策

- 今後の主要な作業プロセス
(下線が汚染水処理対策委員会に関わる範囲)

○その他関連作業

● 自然災害対策

- 日本海溝津波防潮堤の設置、除染装置スラッジ抜出等の津波対策を実施
- 大規模な降雨に備え、排水路整備を実施
- デブリ取り出し完了まで長期的に建屋健全性を確認していく必要がある1～3号機原子炉建屋について、建屋内調査や地震計による傾向分析等によって健全性を評価
(課題)
- 津波対策として、防潮堤以外の対策（凍土ブライン配管保護、サブドレンタンクの高台への移転、等）
- 高線量である除染装置スラッジの遠隔回収・脱水性評価・取扱い時の安全対策検討
- 高線量な建屋内での健全性調査方法の検討

● 分析施設

- 今後の廃炉作業の進捗に応じて必要となる分析機能を有する施設を設置

● その他

- 作業効率を向上するため、管理対象区域内の協力企業棟を休憩所等として利用できるよう整備を実施

その他対策

－今後の主要な作業プロセス（2/3）

